

学級における豊かな人間関係づくりについて

～教師の性別による関わり方の違いに着目して～

山元優史（生涯スポーツ学科 学校スポーツコース）

指導教員 谷川 尚己

キーワード：教師と生徒との関わり 性別 校種

1. 緒言

生徒との関わりにおける悩みは、多くの教師が自ずと直面することである¹⁾。また、悩みの種類に関して、教師の性差が関係していることも明らかである。そのため、男子生徒と女子生徒への関わり方で何らかの変化があり、関わり方でも男女差があると考え。実際に、男性教師は、男児に、女性教師は、女児に多く関わると報告されている²⁾。小学校対象と中学校対象と高校対象では、関わり方にも何らかの違いがあると考え。

そこで本研究では、現職教員の生徒への関わり方に焦点を置き、中学校と高校を主として、関わり方による性別や校種で違いがあるのかを明らかにすることを目的とした。

2. 研究方法

本研究の調査対象は、滋賀県内のM中学校の教員14名内男性教師10名、女性教師4名とK高等学校の教員27名内男性教師14名、女性教師13名を対象にアンケート調査を行い、生徒との関わりで男女の違い、校種での違いがあるか調査する。

3. 結果と考察

教師の性別の違いでは、女性教師よりも男性教師の方が生徒との関わりの頻度が若干であるが多いと言える。生徒の性別の比較では、期待、激励、賞賛、擁護といった肯定的な関わりは、男子生徒よりも女子生徒の方が多く、叱責は、女子生徒よりも男子生徒に多いことが分かった。そして、遊びや身体接触は、同性の生徒に多い関わりであることもわかった。これは、女性教師も男性教師も同じであると言える。

校種の違いでは、高等学校よりも中学校の方が、生徒との関わりが多いと言える。生徒の性別の比

較では、期待、激励、擁護は、女子生徒に対してが多く、叱責、賞賛、遊び、身体接触は男子生徒に対してが多いことが分かった。

女子生徒に対する叱責が少ないのは、アンケート調査の質問項目の女子生徒に対する関わり方において課題は何ですか?において、男子生徒より距離感が難しく、人間関係の修復も男子生徒より難しいという回答が多かったことと、性的成熟の問題があり、早期に性的成熟を迎えたとき、変化に対応する知的、社会的、情緒的発達を備えていない為である上に、男子にはより多くのことを促し、そのことが頻繁な賛辞と叱責につながる為と言える。

4. まとめ

今回、校種においては全項目において生徒との関わりの頻度は、中学校の方が多いという違いが見られ、男子にはより多くのことを促し、そのことが頻繁な賛辞と叱責につながると言える。

だが、性別においては、各項目で男性教師の方が女性教師よりも関わりの頻度が若干であるが多い結果となったが、明確な違いが出ない項目もあった。教育現場では、すべての生徒に等しく教育の機会を与えることが原則であり、生徒の性別による関わり方の違いをなくすことが、最終目標であろう。

参考文献

- 都丸けい子・庄司一子 生徒との人間関係における中学校教師の悩みと変容に関する研究 教育心理学研究 53(4), 467-478, 2005
- 根本橋夫 男性教師と女性教師の男児・女児への働きかけの違い 日本教育心理学会総会発表論文集 (30), 570-571, 1988